



# A R T

All Rikkyo Tennis

## 立教大学体育会庭球部部報

発行所  
立教大学体育会庭球部  
〒171 豊島区西池袋3丁目  
電話 (985) 2680  
発行人 青山貴志

# ／今／原／点／に／も／ど／っ／て／ 一部復帰への新たな道

来年こそは一部復帰を果たし、伝統ある立教テニスの復活を!!

### 来年こそ一部

挑戦を果たせ  
庭球部長 伊藤謙哉

夏近く、今年もART発行、総会の季節となりましたが皆様お元気でいらっしゃいますか。昨年二部へ昇格し、その勢いを駆って一部昇格という大きな期待をもって臨んだ今年のリーグ戦でしたが、残念ながら一歩でそれを果たすことができず、部長としてOBの皆様方にまことに申しわけなく思っております。ただ、昨年より全体の実力が上がっており、来年一部への挑戦、昇格の基盤を築き上げたことは大きな収穫であったと存じます。これもひとえに監督、コーチの諸兄はじめOBの皆様方の物心両面にわたる日頃のご指導、ご支援のたまものと深く感謝して

発行にあたって  
庭球部OB会長 田中富弥

毎度変わらぬOB各位のご厚情・バックアップとこれに込める現役諸君の頑張りにより、来年こそは二部に甘んずることなく、一部へのステップを着実に歩ませたいと、念願しております。どうか、今後とも大所高所からのご指導をお願い申し上げます。

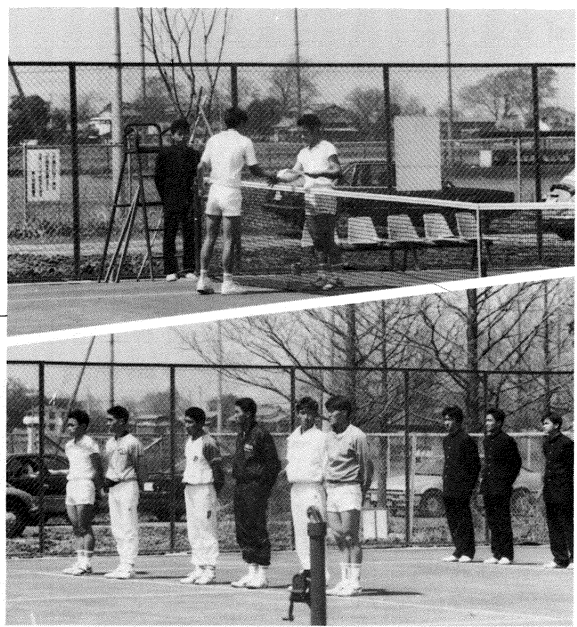
OBの方々にお願いは、多忙とは存じますが、今後とも後輩のため技術的にも精神的にもご指導いただきたく、この場をおかりしてよろしくお願いたします。

OB諸兄のますますのご多幸と健康を心から祈念申し上げます。

### 栗原謙二教授 庭球部副部長に就任

栗原謙二

立教に勤めて十年余りになりますが、この間に二、三の文化系サークルの部長になったことがあります。今度は、庭球部のお手伝いすることになり、今まであまり関係のなかった体育会の学生・OBと、部の活躍という立教大学の華やかな夢に接することが出来るようになります。



おります。

今年のリーグ戦をふり返って、とくに印象づけられたことがあります。それは、リーグ戦で勝つために絶対欠かせない「粘り強さ」をもった選手が増えてきたということです。あと一年これらの選手が他大学選手に対して決してひけをとらなかつた自信を土台に、お互いに競いながら、さらに力をつけることによつて来年のリーグ戦の期待が大きくふくらむものと確信しています。

OBの方々にお願いは、多忙とは存じますが、今後とも後輩のため技術的にも精神的にもご指導いただきたく、この場をおかりしてよろしくお願いたします。

OB諸兄のますますのご多幸と健康を心から祈念申し上げます。

OBの方々にお願いは、多忙とは存じますが、今後とも後輩のため技術的にも精神的にもご指導いただきたく、この場をおかりしてよろしくお願いたします。

OB諸兄のますますのご多幸と健康を心から祈念申し上げます。

OB諸兄のますますのご多幸と健康を心から祈念申し上げます。

大いに期待し、また楽しみにもしています。

大学では、一般教育部に属して地学の授業を担当しております。部長の伊藤先生が講義される宇宙科学よりひとまわりスケールの小さい、地球についての話しをしています。私自身の大学卒業は昭和四十一年東京教育大学卒（筑波大学の前身）ということになります。学生時代に運動部の経験はなく、スキーやソフトボールを楽しんだ程度です。

テニスを習いはじめたのは、立教大学に来てからのことです。体育科の根本先生に体力作りの指導を毎週定期的な受け持たせていただきました。夏休みに伊藤先生が主催される軽井沢のテニス合宿には何回か参加して、庭球部のOBや部員に教えて頂きました。だいぶ前のことですが、小西コーチによる振り回しとそのあとのグラウンド三周という声には、我が命もこれまでかと思つたことがあります。また、中学校の西村先生が指導される、立教教職員向けのテニス教室にも参加させて頂きました。現在は、週に三日ぐらい昼休みにグラウンドに出て、法学部の先生方とテニスをしていきます。試合好きの先生が多く、対戦相手をもつぱら喜ばず役目ですが、「上手になる」と皆にいやがられるよ」などという体育の先生の慰めの言葉を支えに、天気が良いと外に出て、気分転換と体力をつけるように努力しています。

以上自己紹介をさせて頂きましたが、庭球部に関してはまだ何もわかりませんので、皆様の御指導を宜しくお願いいたします。最近、部員が朝八時前に大学に来て練習する姿や、授業の合間に打ち合う様子、時には女子硬式庭球部員との心暖まる交歓風景を、グラウンドや研究室から眺めるようになりました。これからも、力強くまた粘り強いテニスで、庭球部が一層良い成績をあげるよう、心から応援したいと思います。

テニス部は、一般教育部に属して地学の授業を担当しております。部長の伊藤先生が講義される宇宙科学よりひとまわりスケールの小さい、地球についての話しをしています。私自身の大学卒業は昭和四十一年東京教育大学卒（筑波大学の前身）ということになります。学生時代に運動部の経験はなく、スキーやソフトボールを楽しんだ程度です。

テニス部は、一般教育部に属して地学の授業を担当しております。部長の伊藤先生が講義される宇宙科学よりひとまわりスケールの小さい、地球についての話しをしています。私自身の大学卒業は昭和四十一年東京教育大学卒（筑波大学の前身）ということになります。学生時代に運動部の経験はなく、スキーやソフトボールを楽しんだ程度です。

テニス部は、一般教育部に属して地学の授業を担当しております。部長の伊藤先生が講義される宇宙科学よりひとまわりスケールの小さい、地球についての話しをしています。私自身の大学卒業は昭和四十一年東京教育大学卒（筑波大学の前身）ということになります。学生時代に運動部の経験はなく、スキーやソフトボールを楽しんだ程度です。

テニス部は、一般教育部に属して地学の授業を担当しております。部長の伊藤先生が講義される宇宙科学よりひとまわりスケールの小さい、地球についての話しをしています。私自身の大学卒業は昭和四十一年東京教育大学卒（筑波大学の前身）ということになります。学生時代に運動部の経験はなく、スキーやソフトボールを楽しんだ程度です。

テニス部は、一般教育部に属して地学の授業を担当しております。部長の伊藤先生が講義される宇宙科学よりひとまわりスケールの小さい、地球についての話しをしています。私自身の大学卒業は昭和四十一年東京教育大学卒（筑波大学の前身）ということになります。学生時代に運動部の経験はなく、スキーやソフトボールを楽しんだ程度です。

### 一部昇格への基礎固め

監督 小西一三

二部残留おめでとうございませう。二部昇格を決めた昨年と比べてあらゆる面で現役諸君の成長がみられたリーグ戦だったと思います。技術的にも精神的にも格段によくなっているし、特に昨年末まで極めて希薄であった集中力が随所にみられるようになってきました。また、マナーについても皆がよく反省し、態度にあらわしてくれたいと思います。これは現役諸君の努力は勿論のこと、いつも力をお貸しいただいたOBの皆様のご支援の賜物と心より感謝しております。また来年は一部昇格を目指し、全部員の一層の努力を望みます。この一部昇格という目標を達成するには、様々な課題がありますが、中でも皆の和を保ち、個々の長所を伸ばし、どんな状況においても最後まで頑張り抜く体力、精神力の養成が不可欠です。またそうした要素を得るための最も重要なポイントは、日々の厳しい練習の中で、それぞれの選手が自分の課題をもち、集中して練習することです。個性の集合が和となり、必ずや勝利を導いてくれるものと確信しています。努力をすれば必ず何かが変わってくる。今年のリーグ戦はこれを物語ってくれたと思います。

諸先輩、OBの皆様は、本当にご多忙とは存じますが、何卒努力を続ける現役諸君のためにお力をお貸しください。心よりお願い申し上げます。

今年度のリーグ戦も一応二部の四位という結果に終わり、ここ数年の二部と三部の入替戦の心配もするもなくなり、現役、OB共にホッとしているのが本音ではないでしょうか。しかし、自分の母校のテニス部が強くあってほしい、少なくとも一部に一人だけではなくOB全員の願

いだと思います。しかし現状のままではおそろしく二部を維持することが精一杯だと思われま

まず第一に推薦入学がまったくきかないこと。第二に練習コートが志木という遠隔地であること。

第一に関しては学校側の事情もあり、すぐ解決することは出来ないと思われま

立教中学高校のテニス部をいかに強くするか、又、彼等が立大テニス部に来るだけ多く入部してもらうかに全力を投入すれば解決されます。

さて、問題は第二の練習コートの条件の悪さです。池袋より東武東上線に乗って約三十分かかり、さらに一時間に何本しか来ないバスにゆられて約二十分、乗りつぎも合わせて約一時間半かけてやっとコートに到着。さらに雨が一日ふりつづければ、たとえ翌日に晴れてもコートがぬかるんで、まず練習不可能。これでは現役も又OBも志木に行つて練習に励み、強くなろうという気にならないのは当然です。さらに、このコートの立地条件では優秀な高校生も入部はためらってしまいました。

これらの解決策としてここに二つ提案したいと思います。

第一にこのまま志木で練習を行うならば志木に合宿所を作り雨があってもやめば出来るハードコートを一画でも作る。

第二にそれが不可能であるならば、練習の出来るだけ多くの日を池袋の学内のコートで行う。池袋で練習することにより、OBも容易に現役の練習に参加も出来、現役もそれによってモラルと技術アップがなされる。

以上テニス部のいわゆる現場をあくまで現場から、大変申しあげにくいことをあえて述べさせていただきましたが、このままでは現役もOBも、一生懸命やっているというきれいなだけで、まず一部復帰はむずかしいのではないかと私は思います。強い立大テニス部を再び作るためにもOBの方々の御理解と御協力を是非お願い致します。

今年度のリーグ戦も一応二部の四位という結果に終わり、ここ数年の二部と三部の入替戦の心配もするもなくなり、現役、OB共にホッとしているのが本音ではないでしょうか。しかし、自分の母校のテニス部が強くあってほしい、少なくとも一部に一人だけではなくOB全員の願

いだと思います。しかし現状のままではおそろしく二部を維持することが精一杯だと思われま

まず第一に推薦入学がまったくきかないこと。第二に練習コートが志木という遠隔地であること。

第一に関しては学校側の事情もあり、すぐ解決することは出来ないと思われま

### 昭和63年度年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
リーグ戦	テニストーナメント 春季関東学生		OB総会(七月五日)	テニス選手権 全日本学生	テニス選手権 夏季関東学生	同立定期戦 夏季合宿	新進テニス選手権	明立定期戦	納会		春期リーグ戦合宿

OBの声

現況と思い出

青山 毅先輩 (昭和三十四年卒)

先日主務の青山君がOB会費を徴収する為会社を訪ねて来た。内容は何でも良いとの事なので近況報告をかねて思いっきり書かして貰います。

卒業後今年で会社生活二十九年となりますが此の間海外勤務が二十二年と大半を海外で過ごし今年も十二半年のアテネ駐在を終え三月初旬に帰国しました。

こんな事情で卒業以来OB会なども殆んど出席の機会が無く先輩の皆様後輩諸兄とも全く御無沙汰して居り、あいつは未だ生きていたのかと云われても仕方ありません。

最初の任地がエジプトで此処には二度通算六年勤務しました。丁度日本が高度成長期に突入する時代でしたが日本製品売込みの為客先を訪問するとまず云われた事は、日本製は価格が安い

が品質が欧米品に比し劣悪である、で今にして思えば正に隔世の感があります。エジプト駐在中一九六三年から半年間レバノンのベイルートにも居りましたが為替が全く自由な為中東の金融市場として機能して居り、世界中の商品が満ちあふれていました。

上です。催し物でも雨天順延と云うことはまず有り得ません。夏は相当の暑さを感じませんが、民族性も陽気で明るく多少良いければ大変楽しい人種です。

加えて物価も日本に比較すれば安く至って住み心地の良い国なので小生などは定年後生活の拠点をギリシャに移すことを真剣に考えています。

エジプト、ギリシャと行く先でテニスクラブに加入しテニスを通じて色んな国の人達と友人になれたのもテニスをやって来たお陰です。

最後に母校の一部復旧の日が一日も早く来る事を願ひ締め括りとさせて頂きます。以上

マネージャー雑感

唐澤靖治先輩 (昭和三十九年卒)

学生時代の事について何か書いて欲しいとお話をしていただき、戸惑っている。何しろ二十数年前の話。

学生時代は華々しい戦績もない裏方のマネージャー。諸先輩の傍にOB会費や寄付金のお願いで迷惑のかげどおし。卒業後は忙しさにまかして納会にも出席できず、永の御無沙汰、今更、おめおめと……

とは言うもののマネージャーからの再三の督促、立場が分かるだけに何とかしなければと同期の連中に頼んでみたが、いざいざも断られ、己むを得ず筆をとることとなった。

私の在籍時代は、立教大学庭球部の黄金時代と言つて過言ではない。河西部長(故人)、三町監督(故人)、倉光コーチ、のち、小西(現監督)先輩を中心、関東大学一部リーグ戦(立教、慶応、早稲田、法政)において第二位、実力伯仲のところ、今一歩で優勝を逃がしたことが思い出される。

立教大学体育会の中でも、バスケット部、アメリカンフットボール部等と比肩しうる実力部マネージャーも幅を利かせていた。

それだけに「お金」もかかった。合宿に、定期戦に、フミヤスポーツへの「付け」も溜まる一方、先輩方の支援も雀の涙、窮余の一策、金儲けを画策、会計マネージャー、石黒潔氏(現、モービル石油勤務)と語つて

第一弾、シネマ&ミュージックを主催。タッカーホールを借り切り、映画と音楽の夕べと題し、「ペニーグッドマン物語」と三大学軽音楽部の競演。入場券二百円一千枚を捌き、経費差引き十数万円の収益。これでも焼け石に水。

第二弾は、真夏の夜のジャズフェスティバル。大勢の人を一同と会する一大イベント、日比谷野外音楽堂に六大学の代表バンドを招いたこの催し、(立教・ハワイアン、早稲田・デクシー、慶応・モダンジャズ、明治・アドリン)会場からのバンドの手配、パンフレットの広告とり、チケットの販売等、企画はしたもの成功するかどうか……

収容人員、五千人、チケットはもとより、体育会のバックアップ、延いては丸の内オフィス街での飛び込み、今、考えると、若さゆえの無鉄砲、税務所との交渉、著作権協会からのクレーム等、良くやったなと感慨ひとしお、当日の天候は晴天、我に身方せり。

お陰様で、チケット販売四千枚、三千人を超える観客に、一枚二百円として約五十万円の収益、フミヤの付けも一掃、大成功。

強いチームには「お金」もいる。更に今一つ、伝統あるテニス部の名譽ある記録を残すべく、立教テニス」の創刊を日誌も、第一号は、藤沢元監督、河西部長に寄稿を依頼、諸先輩出席の雑談会に加え、名簿、記録の掲載を含め百ページを超える大作、その後数号続いたと記憶しているが今はもうない。

「スカウト業」もマネージャーの仕事の一つ、最近では体育会への推薦枠も厳しいと聞いている。テニスは盛んになったが体育会より同好会の風潮、残念である。

運動部で精一杯過ぎた者の根性は何にでも通ずる。自信と誇りを持って一層の活躍を期待してやまない。

私とテニス

牛込耕二先輩 (昭和六十二年卒)

ダブルスにおけるパートナーの存在は、重大である。勝利の後の美酒を一緒に味わうこともあれば、苦汁を嘗めることもある。また、二人の力を合わせる、実力以上になることもあれば、逆にマイナスになることもある。故にパートナー選びは大切だ。しかし、誰もが試合において、最良のパートナーを選べるものではない。お互いが嫌いなあつてもあるし、一方が「よしがんばるぞ」と思っている、もう一方が「あいつとか。イヤだな」と思う時もある。だから難しい。人間関係というのは複雑である。また、一方が「嫌だな」と思うと、相手に見透かされてしまい、チームワークがくずれてしまうものだ。

私はテニスで下手なわけではなく、根生はある。パートナーが私よりも強い時が多い。(六十二年卒の上杉は別だ)これが苦しい。自分のせいで負けては申し分ない。しかし、大概、私のリターンミス、ダブルフォルト、ファーストボールミスなどの影響で負けしてしまう時が多い。試合は負けられないものだが特に私は、がんばらなくては行かない。技術がないので、その分、気持ちと根性で自分をより高い次元へ、持っていかなければならないのだ。「気合いは技術を越え、そして勝利に導く。」これが私のポリシーである。しかし、私の本心は、実は以上に述べた事ではない。本当は、私生活のパートナーが欲しいのである。「愛は仕事を越え、そして幸福へ導く」

第二部 テニスの正当性

スポーツの世界は、「弱肉強食」である。強い者は、そいつがどういう人であれ、認められてしまふ。モラルを失った人、上下関係が分からない奴、女性関係に乱れた奴。強さが美德とされ、尊敬の的となり、武器になるのである。

逆に、弱さは悪徳とされ、それだけでみじめな思いにさせられる。仮に、ダブルスの試合を考えてみよう。三人がプロフェッショナルで、一人が下手だったら、それだけで雰囲気が悪くなってしまう。私は後者である。幾度か苦汁をいっぱい飲んだ。これはつらい。しかもみじめだ。なぜ、自分がこのような思いをしななければならないのか考えてしまふ。まだ、ダブルスのパートナーに対して「悪いな」と思ってしまう。

しかし、私が言わんとすることは、その逆境を知り、それを乗り越え、強くなればいけないという事だ。下の立場も理解でき、人間の幅を広くすることにもなるか、やはりこの世界では強くなければダメだ。強くなるにはいろいろの方法があるはずだ。自分を逆境に追い込みまくる、その状況の中

らはい上がる方法。自分をいじめまくる、自分を鍛え、磨く方法。逆に、自分を盛り上げ、どんどん調子を上げていく方法もある。

社会人になり、今一番思うことは、やはり、テニスをたくさんできる学生時代に、もっともっとどん欲にテニスに打ち込み、ファーストサーブの確立を高めたり、リターンの練習を徹底的にするなどすればよかったと、ひしひしと思う。しかし、現在でもテニスを上達したいという気持ちには強いので、つい、外に出て素振りなどをしてしまふ。自分がどのような環境にいても自分を律し、意気に感じ、テニスに打ち込みたい。いつの時代も同じである。

週一テニスにおいては、楽しむだけならいつでもできるが、自分を高い位置に置き、がんばりたい。意気に感ずる牛である。

昨年十二月行われた、オリンピックアジア予選男子日本代表選手選考会において、倉光哲氏が優勝し、日本代表選手になりました。先日行われたアジア・オセアニア予選においては残念ながら韓国とのデレ選手、盧甲澤に接戦の末敗れましたが、倉光さんのご活躍はいつも現役一同の励みとなっております。

倉光 哲氏

オリンピックアジア予選男子日本代表に!!

一回戦	倉光哲 6-1 盧甲澤 (韓国)
アジア予選	倉光哲 7-2 白戸仁
決勝	倉光哲 6-1 武鍵正芳
準決勝	倉光哲 6-4 面野雄 (慶大)
日本代表選手選考会	倉光哲 6-3 面野雄

特許小宮山式  
**スプリンクラー装置**

特許小宮山式：ドレンチャージャー装置  
 特許CEC式：室内自動消火栓  
 〃：屋外自動不凍消火栓  
 〃：CO2ハロン消火装置  
 〃：泡消火装置

防火設備・設計・製作・施工  
**建設工業社**  
 東京・渋谷区渋谷3丁目27番13号 電話(409)9511(代)

社会の秩序を守り  
より高い文化創造の担い手として

**第一法規出版株式会社**

〒107 東京都港区南青山2丁目11番17号  
電話 (03) 404-2251(大代表)

# 昭和六十二年 定期戦結果

## 同立定期戦

九月二十日  
於同志社コート

本学3 (D112) 6同志社大  
S214

昭和六十二年同立定期戦は九月二十日、同志社コートに於て行われた。

ジャパン資格一人、インカレ資格四人を持つ同志社と比べると、資格の差こそあるものの、実力の差はさほどなく、本学は昭和五十七年度同立戦以来五年ぶりの勝利をあげるべく厳しい練習を積んでこの一戦に臨んだ。しかし、ダブルスでの接戦をものにできず、そのままの流れでシングルスもおおされてしまい、結果は3-6で残念ながら破れてしまった。

この同立定期戦が、昨年の二部復帰以降、若いチームになつての初めての団体戦であつたが、まだまだ団体戦の経験不足といつたところが全体的に目につきこの後の対抗戦、そして最終的にはリーグ戦にむけての課題が多く見いだされた一戦であつた。

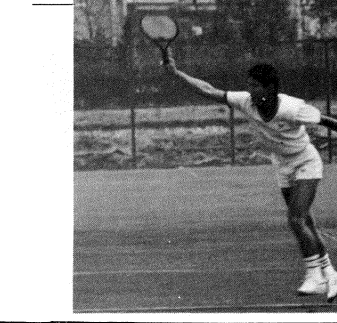
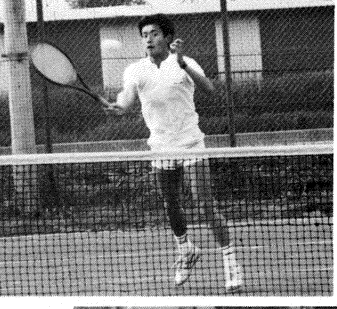
## 同立戦をふり返って

三年 渡辺正和

昭和六十二年、九月二十日、我々新チームは、同立定期戦の為、同志社コートへ遠征した。私にとって初めての同立戦であり、又、新チームにとつても、初めての団体戦であつたので、私達の緊張感、かなり高い所まで昇つていた。しかし、試合の時間が刻々とせまるにつれて、絶対に勝つて東京へ帰るのだという気持ちでいっぱいとなつていった。なぜなら、敵チームは、ジャパン資格一人、インカレ資格四人、関西学生資格者といつた。強豪ばかりの、昨年、関西学生一部リーグの、

2位といったチームであつたからである。

試合が始まると、コートの中は、声援と熱気の渦と化していき、選手の気合いをますます高めていった。ダブルスでは、昆野・柳内組が、インカレ組を破る、貴重な一勝をあげたのであるが、他の二試合は、接戦となつたが、ここ一つの決め手がうちにはなく、押し切れずに、敗れてしまい、一対二のスコア一となった。ダブルスで、リードを許してしまつた私達は、後半のシングルスで、なんとか頑張らなければならなかつた。しかし、ダブルスで有利にたつた同志社のいきおいをとめることができず、シングルスでは確実に山田がポイントを取つておるのだが、もう少しの所で、更にポイントを取られれば、二対四のスコア一となつてしまい、計三対六のスコア一で、新チームは黒星のスタートとなつてしまつたのである。



# 昭和四十一年 以降の 同立戦戦歴

63	同志社
62	同志社
61	中止
60	同志社
59	同志社
58	中止
57	立教
56	同志社
55	同志社
54	同志社
53	同志社
52	同志社
51	同志社
50	同志社
49	立教
48	立教
47	立教
46	立教
45	立教
44	立教
43	立教
42	立教
41	同志社

## 明立定期戦

十一月二十一日  
於 八幡山コート

本学2 (D211) 7明大  
S016

第四十八回明立定期戦が、昭和六十二年十一月二十一日、八幡山コートにて行われた。本学の二部復帰と同時に明治の二部降格によつて、数年ぶりの同リーグでの定期戦となつた今年の明立定期戦は、リーグ戦の前哨戦ともいふべく試合にもなるため、本学は必勝をもつてこの試合に臨んだ。

## 明立戦をふり返って

二年 柳内 崇

昨年の春の本校の二部昇格と明治の二部降格により、今年の明立定期戦は同リーグ同志での戦いとなつたため、僕達一年生をはじめ部全体の緊張は最高に高まつていました。関西遠征での同立定期戦を経験したものの、一年生の僕は団体戦に対してはまだまだ不安ばかりが心の中にあつました。個人戦で明治の選手は数多く見てきましたが、一部でやってきた明治の真のテニスには全く無知でありましたし、何か怖いというものがあつました。明治は資格的にも実力的にも立教より数段上の実力を持

# 昭和二十一年 以降の 明立戦戦歴

63	明治
62	明治
61	明治
60	明治
59	明治
58	明治
57	明治
56	明治
55	明治
54	明治
53	明治
52	明治
51	明治
50	明治
49	明治
48	立教
47	立教
46	立教
45	立教
44	立教
43	立教
42	立教
41	立教
40	立教
39	立教
38	立教
37	立教
36	立教
35	立教
34	立教
33	立教
32	立教
31	立教
30	立教
29	立教
28	立教
27	立教
26	立教
25	立教
24	立教
23	立教
22	立教
21	立教



つていふと思います。当たつて砕けるという気持ち半分、よしやつてやるぞという気持ち半分でした。当日、緊張の中、朝まだ寒い頃明治八幡山コートに着きました。練習が終わつた頃には少し暑いくらいで、調子の方も最高に達していました。明治の方は、メンバーを少し落としてきて、立教をなめてかかつてきたという感じでした。

ダブルスNO2、僕は先輩の昆野さんと組んで明治のインカレペアと対戦しました。自分達のできるだけの、いつもの通りのテニスをしようと思つていました。昆野さんが団体戦には慣れしているで、とにかく昆野さんのリードと応援に身をまかせて途中でプレーしました。やはり応援の力はすごく、後ろから励まされると自分自身の中の自信というものが何倍にも大きくなり、「勝つぞ」という気持ちがあつてきました。ダブルスはファイナルタイブレイクになり、あの時のことはよく覚えていないですけど、どきどきにまぎれてポイントを取つていった気がします。

ダブルス2-1リードで折り返した時の明治の選手の表情は、余裕から真剣な顔つきに変わつていて、立教の雰囲気も最高潮となつていました。僕のシングルスは3-6・6-2・6-7(4-7)で負けてしまつたのですが、本当にいきいだけだつたと思います。途中、ファイナル6-5アップで日没延期になつたのですが、あの試合はあそこで行つて勝てなかつた、自分も十分の相手に發揮できた充実感でいっぱいでした。日を改めての試合は、あまりいいプレーができずに終わつてしまいました。いかに流れというもの大切かを思い知らされました。

### 東海道メガロポリスをネットワークする MIDグループ

地域に密着、開放的なテニスクラブ

支配人 小西 一三  
副支配任 大田 洋一

駅そば「住」「遊」接近のクラブ

**津田沼MIDテニスクラブ**  
千葉県習志野市津田沼1-511-8  
TEL 0474 (72) 7146

古都京都の中心に新しい顔

**京都MIDテニスクラブ**  
京都市南区西九条烏居口町1  
TEL 075 (671) 6661

ファミリーな会員制テニスクラブ

**名古屋MIDテニスクラブ**  
名古屋市中村区名駅南2-7-71  
TEL 052 (582) 8623

松下スポーツガーデン

滋賀県草津市野路町亀ヶ谷2349  
TEL 0775 (64) 0921

※全コート夜間照明あり：ロッカー室、シャワー室完備

LPガス・石油・煉炭豆炭・石炭・住宅機器・自動車

総合燃料商社

**橋本産業株式会社**  
**マルハ産業株式会社**

取締役社長 橋本 内匠  
取締役副社長 橋本 宏

**東多摩三菱自動車販売(株)**

38年度 取締役社長 橋本 宏

橋本グループ

自己資本、125億 売上 1,250億 従業員 860名  
東京都台東区駒形1丁目6番6号 Tel (843) 3241

昭和六十三年

関東大学テニスリーグ結果

二部第四位

第一戦

四月二日

於 明治大コート

本学0 (D0-3) 9 明治大 (S0-6)

四月二日、リーグ戦初戦の明治戦は、まさごと格の違いをみせつけられる結果になってしまった。戦う以前から実力の差はわかっていたが、明立戦の時のように全力でぶつかればどうにかなるのではと思っていた。最初に行われたダブルスは、完全に力でおされていた。こちらのサーブをきびしい所にリターンされ、相手のサーブはしっかりとリターンさせてもらえないといった状態であった。シングルの試合が始まった頃には明治のプレイに余裕がでてきてしまった。逆に我々は、ゲームを取るのに苦労するといった試合展開になってしまった。そんな中でシングルスNO.3の山田は、インカレ資格の岡田を相手に、ファーストセット0-6と落とすしながら、セカンドセットは凄まじいラリーの中からポイントを重ね、6-3でとりかえた。が、ファイナルセットは前半の競り合ったゲームをものにできず、結局3-6でとられ惜しくも敗れた。こうして単複にわたって一試合も勝つことができなかった。やはり、昨年三部から二部へ昇格してきた我々と、一部の中で激しい戦いをし、そこから二部へ降格してきた明治との間に力の差はあったのだらうが、残念な負け方であった。この日に味わった屈辱的な敗北は、部員全員、決して忘れてはならないと思う。「この惜しさは来年のリーグ戦で晴らすぞ」という意気込みで、がんばっていききたいと思う。

三年 田中周作

第二戦

四月五日

於 立教大コート

本学5 (D1-2) 4 日本 (S4-2)

私は、立教大学体育会庭球部に入部して、一年からリーグ戦に抗戦を重ね、これほどうれしいと思ったことはなかった。リーグ戦初戦、明治大学に手痛い洗礼を受け、今年はこの年代続いていた浮き沈み現象を止めるための大切な年であるのだが、部員全員が不安をかみしめていた。また、この不安は日体戦が全て終わるまで重くのしかかっていた。なせならば、この日の試合の勢いを決めるダブルスが1-2で折り返したからだ。日本大のNO.1、2はダブルスとしてはかなりの力をもっており、我々の予想とは大きく違っていた。NO.3は、リーグ戦初出場の一年・増田がプレッシャーをはねのけ、思い切りの良いプレイをしてくれたので、私としては柳内のぬけた穴を十分うめられた。この試合に限らず、リーグ戦を通して、若さいっぱいプレイの増田にはいい経験になったと思う。

三年 田中周作

トータル4-3で再びリード。NO.1武市さん、NO.2昆野のうち一本取れば勝ちである。日体大のNO.1若松は、実力はインカレでも上の方である。幸いNO.2長谷川は、関東学生ではあるが、偵察を前もってしており、私としては気力・作戦ともに充実した状態で臨めた。プレッシャーこそあったが、試合も思いどおりに運ぶことができ、快心の勝利とともに、我々にはあらゆる面で貴重なリーグ戦一勝目をもたらすことができた。全体を通してみて、我々は日体大よりも勝利への強い願望があったと思う。それは選手への応援の姿勢の違いでわかった。日体大は汚ない言葉で我々をやるが、それだけの力である。我々よりも人間的には多いのだが威圧感がないのである。我々は選手を盛り上げ、常に前向きな姿勢を崩すことはなかった。この勝利は、我々が丸となった結果が良い形で現われたものと信じている。

三年 昆野 敦

第四戦

四月十一日

於 立教大コート

本学2 (D1-2) 7 青山 (S1-5)

昭和六十二年、関東大学テニスリーグ第二部第四戦が四月十一日、立教大学富士見グラウンドで行われた。第三戦の東海大学戦が雪で順延になったため、第四戦が先に行われた。

青山学院大学は、インカレ選手四人、関東学生二人を持ち二部リーグでは明治に次ぎ二位と予想される実力の強豪チームであり、苦戦を強いられた。しかし、第二戦において、日本体

育大学に五対四という近差で競り勝ち自信と勢いを持った本学は、絶対に勝つという信念を持ち試合に臨んだ。

ダブルス、ナンバー3においては、ダブルスを得意とする昆野が、怪我で出場できない柳内のかわりの一年生、増田をよくリードした。増田は、リーグ戦経験が今年初めてでありながらも

三年 小島敏正



第三戦

四月十二日

於 立教大コート

本学3 (D0-3) 6 東海大 (S3-3)

四月八日、東海戦の当日は雪だった。延期が決定し、東海戦は青山学院戦の次の日、四月十二日となった。しかし、ここで気をゆるめず、と思い、全員でその決意を固めた。

四月十二日、天気は晴れだったがやや風が強かった。自分自身、体調、気合いとも万全で、チームも勝利へ向かって一丸となっていた。発表されたオーダーは、多少の読み違いはあったものの決して勝てない組み合わせではなく、ますます勝気は高まった。そしてダブルスがはじまった。僕と昆野さんのペアはガンガン攻めまくった。しかし、再三のチャンスにもかかわらず負けしてしまった。相手ペアの一人はインターハイで優勝した人であったが、同じ一年生だったので負けて非常に悔しかった。結局、午前中のダブルスは、三試合とも競り負け、0-3という最悪の事態となってしまった。

しかし、シングルスがあと6試合も残っていたので、逆転のチャンスは十分あると思った。そしていよいよシングルス試合が始まった。風が一段と強くなり、やや、やりづらかった。

三年 小島敏正

しかし実際自分のショットは調子よく決まり、その結果ファーストセットをとり、セカンドも4-2とリードして相手を追いつめたように思えた。しかし、相手の集中力はすばらしいもので、僕の心のすきをつくかのように、かなり思い切ったショットを打ってきた。自分は折あるごとに「もう少しだ」と言いかけたが、それがあせりとなって悪い方向に作用し、セカンドセットを逆転されてしまいついにはファイナルセットも落としてしまった。

負けた気はしなかった。しかし、大学テニスの経験の上では相手の方が一枚まさっていたのだ。

結局午後のシングルスの結果は3-3、計3-6で負けてしまった。内容的にみれば、僕の試合のように勝てる試合もいくつかあり、非常に惜しい対戦であった。僕はかなり気合いが入っていたが、試合を終えてからもう一度考えてみると、まだやや足りなかったのかもしれないと思った。しかし調子は悪くなかった。この悔やしさを次の試合にぶつけようと思った。そして数日後、僕達立教は、学習院を9-0で倒し、二部残留を決めた。

唯一、シングルスでポイントをあげた山田は、インカレ選手としての自信と渡り合いの立教で実力ナンバー1の意地と実力を見せてくれた。

終わってみれば、2-7という大差で敗れた。この試合内容から大きな自信となると共にこの敗戦の悔しさを次の東海大学戦にぶつけた。また、日本体育大学戦の勝利によって少し緩んだ気持を締め直すきっかけともなった。

三年 小島敏正

最終戦

四月十四日

於 学習院大コート

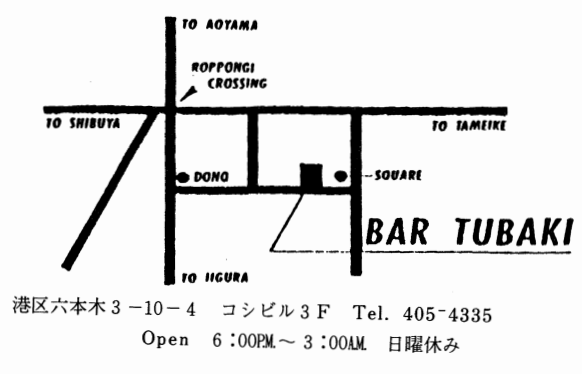
本学9 (D3-0) 0 学習院 (S6-0)

リーグ戦も残るところ、あと一戦となった。最終戦は学習院大学である。力から言えば立教の方が一枚上手ではあるが、安心できない相手である。しかも僕たちはこの最終戦、9-0で勝つ事を前日のミーティングで誓い合った。

試合は目の学習院コートで行われた。最終戦とあって、コート上は緊張感に包まれていた。まずダブルスNO.2とNO.3が入った。NO.2の昆野・増田は、昆野のリードに増田がよくついて行き、まずポイントを上げ

三年 小島敏正

**椿**  
DINNER BAR  
**TUBAKI**  
Roppongi Minato-ku Tokyo  
Phone 03-405-4335



世界の名酒300種  
落ちついた大人のスペース  
ただ今、椿メンバーズカード発売中(多数特典有)  
昭和54年卒 秋元 英晴

救世主現わる! ~ テニスエルボー、腰痛の悩み解消。  
**フミヤスポーツマッサージ**  
●池袋西武百貨店前、フミヤスポーツ本社ビル2階  
**7月25日. オープン**

テニスのすべてを演出する **フミヤグループ**

- ☆フミヤテニスショップ
- ☆本店 (西武池袋店前)
- ☆池袋西武スポーツ館店
- ☆渋谷西武ロフト館店
- ☆吉祥寺近鉄店
- ☆品川スポーツランド店
- ☆富士見が丘店 (井の頭沿線)
- ☆八重州店 (国際観光会館ビル内)
- ☆フミヤテニススクール
- ★桜台★相模園★富士見が丘★光が丘★など11会場
- ☆フミヤスポーツマッサージ
- ☆クラミツプラモート

あなたのスポーツライフ応援します。

た。あと八つ。NO.3は、白寄・渡辺で、セカンドセットタイブレークの末、二ポイント目を上げた。残り七つ。ダブルスNO.1の武市・山田も力の差を見せつけて三ポイント目を立教にもたらし、ダブルスは3-0に納めた。しかし僕はこれの最終戦、9-0で勝つ事に意味を置いていたせい、部員の顔つきは0-3で負けているかのように見えた。

シングルのオーダー交換が終わり、いよいよ残りの6ポイントをあげるべく、シングルの試合が始まった。この学習院大戦で光る一勝を上げたといえ、ファイナルセットの末勝った、二年の小田であろう。粘りに粘り、よく頑張った。結局この日のシングルスは、日没で次の日にもちこされた武市・昆野を除く四試合、全部勝ちを決めた。9-0まであと二勝。一夜明けでも9-0という気持ちで部員全員の前へ立った。昆野も勝った。あとは武市さんだけである。武市さんも9-0で勝つんだという気持ちで強く持って、僕らにもそれがプレーを通じて分かった。

勝った。とうとう9-0が決まった。嬉しかった。本当に嬉しかった。僕個人として学習院大戦を振り返って見ると、とにかく学習院の応援が心に残った。それは女子の応援である。僕の試合、単・複二試合とも女子が総動員でつくのである。もちろん僕の応援をしてくれるわけではない。リーグ戦において「応援」というものは、大切なものである。学習院の女子も愛校心から僕を応援でつぶし勝利をもたらそうとしていた。しかし、後で聞いてみるとあの野次は愛校心からではなく、個人的につぶしたかったからだろう。全くひどい話です。

最後に来年のリーグ戦は、この一戦のように9-0で勝つんだといういい意味での緊張感を持ち続けて一戦一戦、闘っていききたいと思います。

三年 白寄誠爾

### リーグ戦を振り返って

主将 武市広治

まず初めにこの一年間、練習に来てくださった、励ましてくださったOBの方々、本当にありがとうございます。二部の四位という、決して偉張る様な成績ではなく、又、私個人の目標としていた、一部の入れ替え戦にかかるということも達成できず、大変残念ではありましたが、来年へ希望をつなぐといった意味で、後輩達に良い経験と手ごたえを感じさせることのできたリーグ戦にでき、ホッとしております。

さて、実際に今年のリーグ戦を前半と後半の三つに分けて振り返ってみたい。まず前半ですが、明治に完敗し、全員、あがらないゾ、という気持ちで本場にチーム一丸となれた日本大戦。合宿以来、チームを一つにまとめる難しさに四苦八苦ししていた私達幹部でしたが、今、振り返ってみると、あの対明治戦の屈辱が、かえってチームを一つにするきっかけになったような気がします。オーダーが当たった運も生かして、気合で勝利をもぎ取りました。そして中盤戦、日体大に勝って油断したわけではないのですが、青山学院大、東海大と、どちらももともととれるポイントがあったにもかかわらず敗退。しかし、この二戦によって、これから一年間、今度こそ本気で一部昇格目指して頑張れば、来年はいける、という手ごたえを感じることのできた試合だったと思います。

そして最終戦、全員で誓った9-0を実現できた時には、本当に充実感でいっぱいでした。最後に新幹部のみんな、二年生、一年生、一年間、あぶなっかしい幹部でしたが、一生懸命持ち上げながらついてきてくれた、本当にありがとう。来年はお前の年です。プレッシャーなどに負けることなくこれから一年、今まで以上に練習に励んで、悔いを残さず、自分たちの「ページ」を庭球部の歴史に刻んでください。

### 来年のリーグ戦に向けて

新主将 山田 昇

来年のリーグ戦に向けて、今年の経験は、各人にとって大変すばらしいものであったと思います。昨年まで過去二年間の三部でのリーグ戦とは違い、レベルの高さはいまでもなく、その差を感じとれた事がなによりだと思います。ちょうど、井の中の蛙が、井戸から這い出てきて、田舎の道を歩きだしたようなものだと思います。これから先一部である都会に出るために、田舎でしっかりと勉強し、都会に行かなくては、再び田舎に帰ってきてしまい、井戸に落ちてしまいかもれません。その意味で、今年のリーグ戦は、都会の情報を得たといえると思います。つまり、来年のリーグ戦に向けてやらなくてはならないことは、今年得たことを、自分のものにしていくことだと思います。

具体的に今年得たことは、それぞれ個人で違うと思いますが、私自身が感じたことは、技術面では、サーブが他校より劣っていたと思います。自分自身もダブル・フォルトを数多くし、反省する点であります。チームとしても弱く、そのことがダブルスでの結果につながっていました。もう一つ重要なことと感じたのは、体力のことです。学習院戦をのぞけば、ファイナルセットに入った試合は十回あり、勝ったのは二試合だけでした。その中でも、ファーストセットを取っておきながらの逆転負けが多く、その他でもファーストセットをおとし、セカンドセットをリードしておきながらせり負けするというように、体力がもたず、集中力をなくし、負けにつながるものがありました。

来年のリーグ戦に向けて、田舎へ出てきた私達は、都会へいく準備をし、大都会で立派な蛙になれるよう、がんばっていきたいと思います。

### 来年へ期待つなく

二部 残留

助監督 鷺田典之

二部リーグ第四位。決してほめられる結果ではありません。しかし私は一歩前進したと考えると思います。それには以下に述べる二つの理由があります。

①私の予想を下回る戦力で臨んだにもかかわらず二部に残留できたこと。

②レギュラーに故障者が出たにもかかわらず二部に残留できたこと。

昨年のリーグ戦が終わった時、私は「来年のリーグ戦までにシングルスでインカレ一人、関東学生一人、ダブルスでインカレ一人、関東学生二組の資格者を」と思っていました。ところが、私の指導不足の為に、シングルスは関東学生二組一人、ダブルスが関東学生二組という思ってもいなかった結果となり、今年のリーグ戦が苦しい戦いとなる事は予想していました。しかし、昨年の明立戦でダブルスに於て2-1でリードしたように、ダブルスのNO.1と2が比較的安定しているのNO.3とシングルスとの頑張り次第では二部リーグで二位に食い込む事も夢ではないと思っています。ところが、リーグ戦間近に、ダブルスNO.2に出場予定

### リーグ戦観戦所感

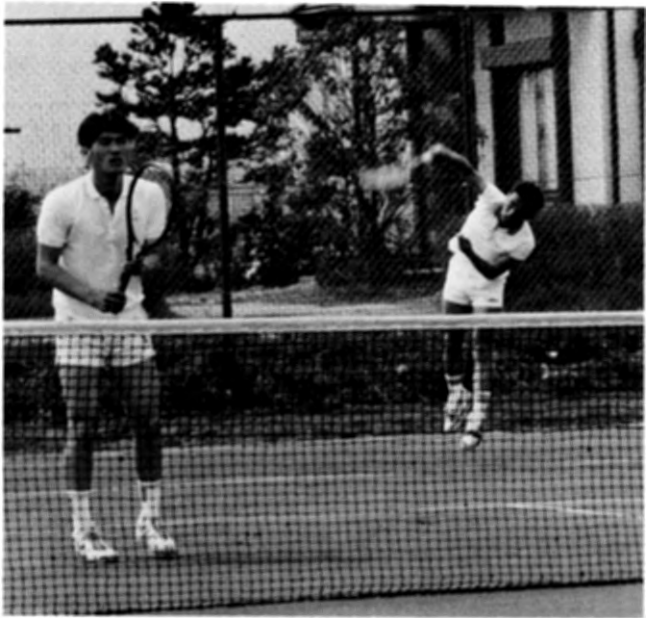
瓦林聖児

(昭和三十四年卒)

去る四月二日、後輩のリーグ戦第一戦の対明治大学戦の応援に行った。その前にいつ頃大学の対抗戦を見たか記憶にないが確か私が一回目にスウェーデン(以下端典と書く)に転動する前だから一九六九〇七〇年位だったろう。何と十七八年振りである。その間一度だけ浜松に立大合宿のコーチに行った事がある位であまりにも長い間学生の試合を見ていない。

一方私は、一九七二一七六年と一九八〇一八六年と合計十二年三井物産の端典に駐在し、そこで仕事の合間に数多くテニスを見てきた(自分では遊びのテニスだけで試合には出ていない)。御承知の方も多いと思うが一九七〇年代前半に有名なピョン・ボルグが彗星の如く現われ、あの変型フォームで次々に強豪を倒し世界のトップに向けて急速に成長していった時期である。周囲の大人やコーチ達からボルグのテニスはあまりに変わって無理があり、両手打ちのバックハンドではリーチが狭く又体力を消耗し大成しないとか、トップスピンのグラブドストロークだけのテニスタイルでは全仏(クレイコート)には勝てても全英(ウインブルドン)芝コート)では絶対に優勝はできないとの非難を受けながらも頑として自己のテニスを作り上げ既存の常識を次々に打ち破っていった事はあまりにも有名。

ボルグが強くなるにつれて端典でのテニス熱が高まり、全体のレベルが上がりその強さが段階低年齢層に下りて小中学生のテニスが急激に強くなって来た。いまは将来の有望選手にこと欠かない状態である。田舎町の名もないトーナメントで八九才位の子供が試合をしている。しばらく見てみるとそのグラブドストロークの上手さに見とれてついコートに離れられなくなり、実に我慢強い試合のやり方に感心してしまう。しばらく見ない日本のジュニアの試合とはどん



定二年の柳井が腰の故障でリーグ戦に出場できそうもないという知らせを聞き、最悪の事態も覚悟しました。というのも、過去レギュラー選手が故障して出場できない場合、ほとんどと言って良い位惨々な成績となっているからです。

しかし、昨年・今年とレギュラーと準レギュラーとの実力の差が小さくなって来て、中レベルの層は厚くなって来ました。更に、来年、レギュラーで抜けるのは主将の武市だけという状態、レギュラー全員が資格者となる実力を持つているだけに今年本場に全員が資格を取ることができれば、来年は一部昇格を果たすことも夢ではないと思います。昔から「ピンチの後にチャンス有り。」と言います。今年のピンチを何とか切り抜けた今、来年はチャンスの年だと思います。使い古された言葉かも知れませんが、「苦あれば楽あり。」を信じて、絶対にあきらめない姿勢をくずさなければ、勝利は必ずと得られるでしょう。その一助となるよう私も努力したいと思っています。

最後になりましたが、紙面をお借りしましてOB諸兄の現役諸君への変わらぬ御厚情に御礼を申し上げます。御指導・御鞭撻の程、お願い申し上げます。

## 上野運輸グループ主要会社



創業115年

中島総業株式会社  
株式会社 ユキ・ジャパン

群馬県館林市大手町7-20  
0726-72-0420

昭和51年卒 中島幸彦

- |              |                |                     |
|--------------|----------------|---------------------|
| 株式会社上野運輸商会   | 三光石油株式会社       | オクサリス・ SHIPPING Inc |
| 東邦海運株式会社     | 株式会社ワイ・エス・ケー   | ウエノ・ストルト・タンカーズ Inc  |
| 上野ケミカル運輸株式会社 | 上野興産株式会社       | 株式会社ラック・コーポレーション    |
| 上野輸送株式会社     | 伊勢湾防災株式会社      | 上野ビルメンテナンス株式会社      |
| 上野石油倉庫輸送株式会社 | 上野マリン・サービス株式会社 | 上野ホームサービス株式会社       |
| 旭日通産株式会社     | 中部マリン・サービス株式会社 | 京都サザンテニスクラブ         |
| 旭菱石油株式会社     | 西部マリン・サービス株式会社 |                     |

なものの、端典の子供と試合をしたらとても歯が立たないだろうなと想像することしきりだった。

さて本題に入り後輩諸君の対明大戦の感想。先づ私達の時代のやり方との違いに驚きを感じた。私が見て昔より悪くなった。テニスの試合としては普通でない、大学生として不適当だ、又は外人のテニス愛好者に見せたらとても辱かしい、という様ないくつかの点を指摘したい。(これは立大だけでなく明大側も全く同様である)

一、何故ボールボーイが両校から一名づつ出てネット側に居るのか。ボールがバックに転がりネット側から特に対角線に黒い学生服の二人が死にも狂いでボールを追いかける様子はまるで小学生か犬の子並である。(これが学連が決めた大学対抗戦のルールだとすると何とも理解に苦しむ)

二、主審が何故審判台に直立不動でやるのか。審判台は腰かける様に出来ている。今の学生は軍国時代に逆戻りしたのであるか。

三、ライオンズメンは何故自校に有利にジャッジするのか。人間だから多少のミスジャッジは止むを得ぬとしても私の見た限り両校とも相当にアンフェアである。

四、応援はテニスの応援らしく拍手だけで出来ないものか。相手選手をやじったり冷笑的な事を言ったりやらないと勝てない程の弱味方選手なのだろうか。

五、あまり上手でもない選手が時々マダレ気味にショットが決まるたびにレンドルが全米選手権のマッチポイントを決めた様なポーズをするのも如何なものか。これが現代風テニスなのだろうか。(明大選手に目立った念の為)

七、各選手が試合終了後諸先輩の忠告を次々に聞いて廻るのも本場に役立つのかどうか疑問。先輩の全てが、たまたま応援に来て部分的に試合を見ただけで適切なアドバイスが出来るとは思えない。又、何人もから聞けば矛盾したコメントになる可能性もある。とにかく後輩の為に本場に役立つと思っただけ先輩達が自分から言えよと心配する次第。

以上はテニスの勝負以外のことで私の意見を述べたが後輩諸君は入部の時からそんなものかと思っただけなのかとも知れない。しかし体育会庭球部があまりに形式主義や時代錯誤の精神主義に偏っていると同好会より人間的にテニスを楽しんでいる人達に笑われることになるのではと心配する次第。

さて本題中の本題、試合内容についての感想。明大に単複共完敗し九〇だったから勝敗について言うことは少ないが、個人の實力からすれば一ノ二ポイント取ってもおかしくなかったと思う。(ダブルスは途中からしか見ていないが少なくともシングルの一ポイントも取れたのではないか)。私は試合中、次の様な視点でシングルの殆んど全部を観戦し、試合後各々の選手に気が付いたことをアドバイスした。

一、相手の方が勝っているのは何か(何故勝ったのか)。自分の方が勝れているのは何か(でも何故負けたのか)。技術面での長所・欠点。試合運び。

二、精神面での強さ・弱さ(試合経過について変化)。今後何を如何に練習すべきか。私、テニスの強さとは技術力・体力・精神力。試合運び。

この積集の総合力だと考えている。この中で昔と今のリーグ戦でや違うのは体力(持久力)の重要度かもしれない。何故なら今のリーグ戦は三セットマッチだから持久的体力の差が勝負を左右する要素となりにくい。一方試合が短かいためボールを打つ技術そのもの及び試合運びなどの重要性が高くなる。また第一セットの得失が試合の勝負を左右する可能性が非常に高くなっている。

精神力は試合の時突然強くなったり弱くなったりするものではない。普段から心掛けて訓練し、試合の前日・当日の朝・試合直前と一つの流れを以って試合時に最高にもっていき様なコントロールの仕方を自分で覚える事が必要(メンタルトレーニング)の方法はいろいろあるが何かの機会によく説明したい。

という前提での勝ちパターンを例を述べたものであるが、一人一人自分の型に合わせた戦略がある筈で、練習の時からそれをよく自分で認識し勝ちパターンを体得して行くことである。テニスの試合に於ては自分より三割増位に強い相手迄なら勝つ方法があるという事である。

最後に普段の練習の仕方について一言  
一、トップスピンの選手は自分の一番得意・最も安全なスピンのかかり方を覚えること。ピョン・ボルトですら相手のコートに最も確実に球を入れるにはネットの二倍の高さを通り相手のサーブラインとベースラインの中間に球を落とす様にするといい。正に至言と思ふ。

二、自分の最適なスピン具合を体得したら浅めのチャンスボールはスピードを出せる様、より高い打点でスピンを少なくして打つ練習をする。(明大戦でも相手フォアサイドがガラ空きになってもボールをこすり上げて打つ為エースが取れないことがしばしばあった)

三、パッシングの練習はコースを決めて実戦的に反復練習する。(例えば二・三本つないだ後相手にバックを突いて出てもらい、それをパスでぬくか、ロブを上げて逃げる練習をくり返す)

四、練習は基本練習とポイントポイントの実戦練習を必ずやる。そして実戦練習の際はメンタル的にも試合をしている時と同じにするという訓練が必要である。

長々とテニスについて述べたが大学生とはテニスはやればやるだけ、又明日は今日より上手になれるということである。練習しても下手になる一方の年代の私達から見ればうらやましい限りである。四年間を立大生として、体育会庭球部員として充実した日々を過ごして欲しいと思うOBの老翁心である。又何とか時間を作って試合を見た

という前提での勝ちパターンを例を述べたものであるが、一人一人自分の型に合わせた戦略がある筈で、練習の時からそれをよく自分で認識し勝ちパターンを体得して行くことである。テニスの試合に於ては自分より三割増位に強い相手迄なら勝つ方法があるという事である。

### 合同練習会に思う事

藤井孝信  
(昭和五十九年卒)

立教学院テニス部にとって、大きなイベントの一つに定着してきた、小・中・高・大学の合同練習会が、去る、十一月二十三日に行われました。第一回目の合同練習会は、確か私が中学三年の時だったと思います。早いもので、もう十二、三回目を迎えておりますが、毎年、毎年御苦労いただいております。西村先生から練習会の通知をいただくたびに、今年も参加しようという意欲がかられます。

さて、この合同練習会は、立教学院全体が強くなっていく上で、重要なつながりをもつ会でありますが、内容も、年々、充実していくようです。小学生はテニス部、高校生は大学テニス部で、少しでも多く、続けてほしいという意味もあり、一年に一回ではありますが、この練習会で、それぞれが、上を目指していく上では、実力をはかると共に、小・中・高・大学間のコミュニケーションをはかる絶好の場でもあります。

この合同練習会の以外の場合でも、それぞれ交流はあっても、ほんの一次的なものであっても、継続的な交流ではないようです。

たとえば、高校生であれば、インターハイの前だけ、大学生が顔をみ出す程度で、一年を通じて一緒に練習をする機会が少ない現状です。中学生においても同じことがいえると思います。小学生は中学生、中学生は高校生、高校生は大学生と練習することは、大変うれしいことだし、お互い刺激にもなると思います。刺激を常に与えることが、それぞれの好結果につながるでしょうし、その刺激が多ければ多いほどより上を目指すことができると思っています。今、立教学院全体に足りないものは、競争心、闘争心ではないでしょうか。小学校から大学まで、一環してテニスをすることができれば、なんとなく終わってしまう場合が少なくないと思います。このせつ々かの良い環境の中で合同練習をきっかけに、もっともっとお互い育てあげることによって、より強いテニス部が確立されるのではないのでしょうか。小学生が楽しくテニスができ、中学生をやる気にさせ、高校生をきたえ、大学生を強くすることが、立教学院テニス部全体のレベルを向上させると思っています。そういう意味で、合同練習会を一つのステップとして立教のテニスが強くすることを望んでいます。



たとえば、高校生であれば、インターハイの前だけ、大学生が顔をみ出す程度で、一年を通じて一緒に練習をする機会が少ない現状です。中学生においても同じことがいえると思います。小学生は中学生、中学生は高校生、高校生は大学生と練習することは、大変うれしいことだし、お互い刺激にもなると思います。刺激を常に与えることが、それぞれの好結果につながるでしょうし、その刺激が多ければ多いほどより上を目指すことができると思っています。今、立教学院全体に足りないものは、競争心、闘争心ではないでしょうか。小学校から大学まで、一環してテニスをすることができれば、なんとなく終わってしまう場合が少なくないと思います。このせつ々かの良い環境の中で合同練習をきっかけに、もっともっとお互い育てあげることによって、より強いテニス部が確立されるのではないのでしょうか。小学生が楽しくテニスができ、中学生をやる気にさせ、高校生をきたえ、大学生を強くすることが、立教学院テニス部全体のレベルを向上させると思っています。そういう意味で、合同練習会を一つのステップとして立教のテニスが強くすることを望んでいます。

## スポーツ家族のスポーツひろば

テニス インドア6面コート **スポーツひろば** ボウリング 100レーン

# ハタスポーツプラザ



スカッシュ・ゲートボール・  
ビヤード・卓球・オートテニス・  
プール・サウナ・レストラン・  
ゲームセンター

地下鉄有楽町線要町駅下車徒歩7分 ☎(955)2151

昭和48年卒主務 内原 康雄  
メガネ・贈答品・ゴルフ景品など 自宅 TEL (03) 914-9143  
お気軽に御用命下さい。

## 王子が加者

趣味と珈琲の店



本店 国電王子駅正面 北区王子1-9-1 ☎(03)913-1549  
支店 秋葉原デパート3Fメガネ売場 千代田区外神田1-17-15 ☎(03)253-6276  
王子本町店 北区王子本町1-1-21 TEL 905-4655  
アトリエ美翔 TEL 907-6525

卒業生紹介

高山和則

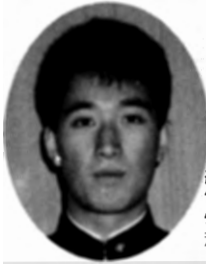
(主将) 経済学科



男としてのケジメを重んじ、決して妥協は許さず、有無を言わず下級生を引っぱっていきあの強引さは、テニスにもよく表われていました。また、いつのまにかマジになっていく彼の冗談は下級生にはいつも脅感でした。

鹿浜哲也

(副将) 経営学科



白のソアラに流れる曲はオールディーズ、錦織顔負けのルックスにそれはアンバランスな軽いジョーク。しかし一度コートに入ると厳しく我々を指導し、自分を犠牲にしても部や部員の為を思ってくれる優しい方です。

新谷守夫

(副将) 経済学科



新谷さんは、相手の弱点をひつつくつつ知密な戦略、絶対に負けないぞ!!という気力、体がポロポロになりながらもがんばる体力だけで?数々の勝利を収めてきました。また、彼の後輩への優しさに私達は涙したものでした。

就職先 プリマム

上杉 佐

(主務) 観光学科



「センス」「タッチ」こんな言葉の似合うテニスで、どんな深いボールでもさがらずライジングでたたき、一部では「隠れジャパン」ともいわれられていました。又、主務の仕事も見事にテニスと両立させて、まさに庭球部二部復帰の陰の大黒柱でした。

清隆 一郎

経済学科



清さんは、ひょうひょうとした風貌で物怖せず球を綺麗に打ち返す美しいテニスを僕らに見せてくれる。彼は酒が大好きで、そして実業団でもテニスを極めてよいという、常に向上心を持ち続けるすばらしい性格の持ち主である。

最賀智正

(学連) 経済学科



全日本学生テニス連盟理事長という文字通り学生テニス界の運営でトップに立つという偉業を成し遂げた素晴らしい先輩でした。小さな体に秘めた底知れぬ寛大な心でいつも立大庭球部を見守り続けて下さいました。

就職先 富士ゼロックス

四年間をふり返って

上杉 佐

四年間、いや、私が昭和四十年に生まれて二十二年間、ただ単に「なんて月日がたつのは早いものだろう」と、社会人一年生になった今日この頃、よく思っています。大学のキャンパスを物珍しそうに歩き、授業にもあまり出ず、ただ毎日毎日コート整備をし、テニスボールを日暮れるまで追い、声をからして、立教フアイトをにかけていた時が昨日のように思えます。なんと今も我々が三年生の時に入学してきた山田や白寄が、今や幹部になり、最高学年として庭球部の核になっていくのですから、そういえば、我が幹部になった時も、先輩方に「もうお前らが幹部だもんなあ、これで庭球部も終わらななな」なんて、冗談を言われたこともあります。

就職先 明治屋

今年の後輩達にとっては、正直言って不安で緊張した一年であつたろうと思います。我々はなんとか二部に復帰しましたがその次の年がどんなに大切で、どんなに大変なことか、よくわかります。そして、それを成し遂げてくれた後輩達に、「どうもありがとう」と何回言っても足りないくらい感謝しております。

私が、四年間を振り返り、大変なことが七割、良かったことが三割あつたような気がしますが、これは体育会に入った以上は当たり前で、今は良かったことが二〇%で、苦労したことなど忘れてしまったようです。時は、一つの流れが終わったときに初めてふり返ることが出来るもので、その流れの中には決してふり返れないと思います。むしろ、ふり返れない程、集中したいものです。これからも、楽な道ではありません。庭球部の一員である以上、どんなことでも同じやるなら精一杯努力して欲しいと思います。(もろろ自分自身もそうです)

努力すれば、必ずいつか良い結果を生み、自信がつきます。そして、純粋に可能になることを信じて!ただ一つだけ、どんなことがあろうとも庭球部は世界一、明るい部であつて欲しいと思います。

女子部主将岡崎

インカレに

去年の夏、女子部において、久しぶりにインカレ選手が出ました。男子部にも、前々主将の高山さん以前、シングルのインカレはいないので、女子部に負けられない様、今年は頑張ろうと思っております。

岡崎美穂

「やめようと思う時期が成功の晩に近い。マゼランを見よ。辛い時が栄光に近い時と思え。苦悩なくして歓喜はない。」これは私が最近読んだ書物の中の一節です。私が初めて本気でテニスをやめようと思ったのが二年の夏でした。本戦一回戦の壁を破ることができずに苦しんだものです。しかしこの言葉通り、その秋の新進戦ではベスト8、リーグ戦では、インカレ選手に逆転勝ち、春季関東学生選手権大会では第二シードを破ってベスト16という戦績をおさめることができました。私にとって二年の夏は、「歓喜の前の苦悩」であつたと思われまふ。

インカレ出場は夢であり、憧れでした。正直に申しますと、インカレのコートに立てるだけで満足だ、という気持ちがありました。しかし、インカレ開催前に私は、一年生から「必勝」の手紙をもらって、心が動いたのです。「いつもの調子の全力投球で頑張ってください!先輩の名前を全国にとどろかせて下さい!」などの励ましの言葉に支えられて、「立教の代表として堂々と戦って来よう」という気持ちに振立ちました。主将としての自信が高まったのもこのインカレの頃だつたと思います。

厚い一回戦の壁を破ってインカレ選手になれた理由のひとつが、幹部になるという自覚、主将としての自信にあるのではないかと申します。下級生をひっぱるのに、自分に厳しくなり、ナンバー1としてお手本になるようなプレイをしたい。という気持ち、勝負強さにつながつたのでしよう。また技術的には、自分からエースを取りに行くよりも、相手をゆさぶり、ミス誘うテニスを実践できるようになつた、というのが、自分自身を追いつけずには勝つていかなかった理由ではないかと思つてます。私達の一つの代が一人もおらず、二年間一年生としてがむしゃらにやつてきた私にとって、幹部になるということは気持ちの上でも、技術的にも余裕を持つことだつたのでしよう。

個人成績

夏季関東学生テニス選手権

※本選(於 荻山テニスクラブ) 一回戦

シングルス

高山 1-6 上原(明大)

清 2-6 阪木(明大)

山田 6-10 国井(中大)

山田 6-10 田村(慶大)

山田 2-6 田村(慶大)

山田 2-6 田村(慶大)

山田 2-6 田村(慶大)

山田 2-6 田村(慶大)

山田 2-6 田村(慶大)

山田 2-6 田村(慶大)

山田 2-6 田村(慶大)

山田 2-6 田村(慶大)

山田 2-6 田村(慶大)

山田 2-6 田村(慶大)

山田 2-6 田村(慶大)

山田 2-6 田村(慶大)

山田 2-6 田村(慶大)

山田 2-6 田村(慶大)

山田 2-6 田村(慶大)

山田 2-6 田村(慶大)

山田 2-6 田村(慶大)

山田 2-6 田村(慶大)

山田 2-6 田村(慶大)

山田 2-6 田村(慶大)

武市 1-6 水畑(青学大)

山田 4-6 佐々木(法大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 名頭(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)

山田 4-6 大森(専大)



立教大学体育会庭球部名簿

Table with columns: 学年, 学部, 学科, 役職, 氏名, 出身校, 〒, 住所, 電話. Lists members of the tennis club including their roles and contact information.

◎昭和63年度新幹部紹介

主将 山田 昇 主務 東樹 秀明
副将 昆野 敦 副務 平井 智武
白寄 誠爾

新入生紹介

足立充生

自分の性格は、あまり物事が長続きしないタイプで、これまで自分で、よくやったなと自分で満足にひたれる事は全くと言っていい程ありませんでした。しかし、それではいけないと思

齊藤仁丸

私は大学へ入る前までハタ・スポーツラザでテニスをやっていた。庄野さんや高山さんや上杉さんにテニスを教わりました。今までそんなに多くの試合をやっていたので、試合経験が不足している、早く試合の

中尾正芳

僕は高校からテニスを始めました。受験のため高三の春には引退してしまっていたので、実際にテニスをやることはなかった。今、このところテニスにすっかりはまった状態、これからはもうこの状態が続くと思っております。

西口弘利

私は中学、高校と軟式をやってきました。高校入学時には、硬式をやろうと思いましたが、厳しい練習に絶え切れず、比較的楽な軟式に入学してしまいました。そして、気の抜けたまま二年のときに退部してしま

現役紹介

学連をやめて新たに

三年 木村達彦

昭和六十一年六月よりおよそ十五ヶ月間という短い間ですが学連として務めてきました。学連を知り尽くしたとは言えませんが学連の下働きの部分の事は全て見て来られたと思います。学連を四年間通してやってきました。OBの方々には今回僕が立教の学連の代表のような文章を書くのは、おこがましいと思われながらも知れませんが、その点は悪しからず御了承下さい。

二年間をふりかえって

新主務 東樹秀明

二年前、大学受験を終えて体力がすっかりおちてしまった私が恐れ多くも体育会庭球部に入部した。この間に、受験中に無性にテニスをしたこと、もう一つ、自分のテニスが体育会に籍をおくことによりどこまで強くなれるのか確かめたかったからです。そこで大学受験中から大学に入ったら勉強せず、テニスだけしようと思っていました。

編集後記

第五号を発行するに当たりまして、まず、お忙しいところ大変無理を言ってお原稿をお願いしたOBの方々、そして毎回の発行のご協力をいただくOBの方々、本当にありがとうございます。この新聞により、OB諸兄の方々が増々現役のご理解を深めていただき、現役もOB諸兄が少しでも近い存在になるようなものになれば幸いです。

い、皆で応援しているその中で一人で中立を守り立って応援もできず試合に勝っても喜びを分かち合う事もできない。この時の孤独感と辛さは今までの想像を絶するものでした。しかし自分は学連として部の勝利に貢献したに違いないと、自分を慰め説得させて来ました。リーグ戦が終わる学連を続けるかどうか悩みました。学連内では大声では言えないですが常に立教を優先に考え、自分の力で出来るだけ立教の為に出来る事を念頭に学連をやってきました。学連で行く事は大変困難であるという結論に達した時、学連をやめる決心をしました。そして最後の一年は普通の部員として後悔の無い様テニスに打ち込む決心をしました。学連をやめたという一年生が三年生になったときに一年のときに一番たのしかったと思えるように部を充実したものにしていきたいと思っております。